

Nara National Museum

奈良国立博物館 だより

第 **129** 号

令和6年 4・5・6月



国宝 金銅密教法具（京都・教王護国寺（東寺））

特別展

生誕1250年記念特別展

空海 KŪKAI

－密教のルーツとマンダラ世界

4月13日(土)～6月9日(日)

東・西新館

特別陳列

泉屋博古館の名宝

－住友春翠の愛でた祈りの造形－

7月20日(土)～9月1日(日) 東新館

わくわくびじゅつギャラリー

フシギ！日本の神さまのびじゅつ

7月20日(土)～9月1日(日) 西新館

名品展

珠玉の仏たち

通年 なら仏像館

中国古代青銅器

通年 青銅器館

生誕一二五〇年記念特別展

空海 KŪKAI

—密教のルーツとマンダラ世界

4月13日(土)～6月9日(日)

「虚空^{こくう}尽^{じん}き、衆生^{しゅじやう}尽^{じん}き、涅槃^{ねはん}尽^{じん}きなば、わが願^{ねがひ}いも尽^{じん}きなん。」

(『性靈集^{しやうりやうしゆしゆ}』巻第八)

(この世の全ての物が消滅し、仏法の世界が尽きるまで、
私は人々が救われることを願ひ続ける)

平安時代初めの仏教界の偉人^{いじん}、空海^{くわい}(七七四～八三五)が、人々を救うためにたどり着いたのは密教でした。インドで誕生した密教は、海と陸のシルクロードを通り、中国へ伝わりました。人生をかけるべき仏の教えを求め、中国に渡った空海は、唐^{とう}の高僧^{けいそう}、恵果^{けいこ}との運命的な出会いにより密教を伝受します。帰国後の空海は、国や多くの人々を守り救うために、ひたすらに密教の教えを広めていきました。

密教は、言葉だけでは全てを理解できない秘密の教えとされます。空海の生誕一二五〇年を記念する本展では、空海が伝えた密教とは何であったのか、空海が目で見えて理解せよと述べたその世界観を、密教のほとけが取り囲む曼荼羅^{まんだら}の空間として展示室に展開します。そして、空海が直接制作に関わった現存唯一にして最古の両界曼荼羅^{りやうかいまんだら}である高雄曼荼羅^{たかおまんだら}が、このたび修理後初の一般公開となります。本展は、中国・インドネシア・日本に遺された密教美術にまつわる作品を通して、国際的な密教伝来の歴史をたどるとともに、空海が伝えたかった密教の世界観を体感していただくという、これまでにない視点に立った展覧会です。



国宝 五智如来坐像 (京都・安祥寺)



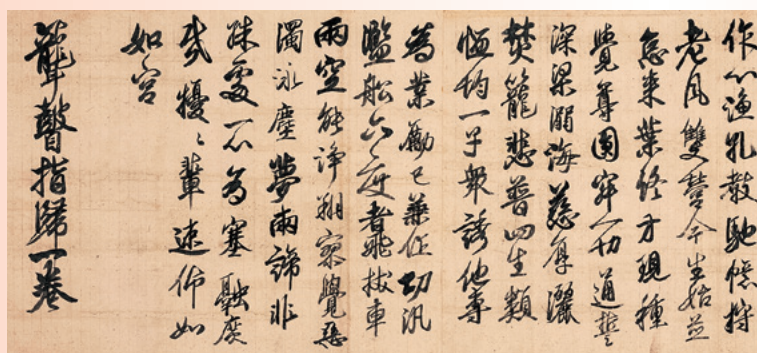
国宝 両界曼荼羅 (高雄曼荼羅)
金剛界(部分) 京都・神護寺
※大日如来の部分拡大
※5月14日～6月9日展示



国宝 西院曼荼羅 (伝真言院曼荼羅) 胎蔵界
(京都・教王護国寺) (東寺)
※4月13日～5月12日展示



ガンジユク出土
金剛界曼荼羅彫像群 (ガンジユク出土)
のうち四面毘盧遮那如来坐像
(インドネシア国立中央博物館)



国宝 響臂指帰 下巻 (和歌山・金剛峯寺) ※4月13日～5月12日展示

フシギ！日本の神さまのびじゅつ

7月20日(土)～9月1日(日)

日本では、はるか昔から、数えきれないほど多くの神さまがいると信じられてきました。人びとは神さまへの祈りをささげる中で、神さまへのささげものを用意したり、神さまの姿を表したり、また、神さまとほとけさまを結びつけたりもしました。このような営みから、さまざまな祈りの美術が生み出されました。

この展覧会では、日本の神さまの美術にまつわる、いろいろな「フシギ」を紹介しながら、人びとが日本の神さまをどのように見つめていたのか、その秘密に迫ります。展覧会場には、お子さまから大人の方まで、わくわくしながら鑑賞していただけるよう、さまざまな工夫をこらしています。さまざまな「フシギ」にふれながら、日本の神さまの美術の魅力を感じてみてください。



重要文化財 天神坐像 鎌倉時代 正元元年(1259) (奈良・興喜天満神社)



本展をナビゲートする
奈良国立博物館公式キャラクターの「ざんまいず」

泉屋博古館の名宝

―住友春翠の愛でた祈りの造形―

7月20日(土)～9月1日(日)

泉屋博古館は、住友家第十五代住友吉左衛門友純(雅号：春翠、一八六四―一九二六)のコレクションをはじめとした美術品の保管、研究、公開をおこなう美術館です。三五〇〇件に及ぶ収蔵品は、中国古代青銅器、中国・日本書画、西洋絵画、近代陶磁器、茶道具、文房具、能面・能装束など幅広い領域にわたり、設立の地である京都・鹿ヶ谷、そして東京・六本木でも公開されています(泉屋博古館(京都)は改修工事のため、二〇二五年春まで休館)。

本展は、泉屋博古館の全面的な協力の下、住友コレクションの代名詞とも言われるべき中国青銅器の名品と、春翠の審美眼による選りすぐりの仏教美術をご紹介します。ものです。古代中国の祭祀に用いられた青銅器や、仏教寺院にまつられた仏像、仏教儀礼に関わる仏画や工芸品など、いわば様々な信仰に関わる名品を一堂に集めた展覧会とも言えます。実業に携わりながら芸術文化にも高い関心を示した住友春翠の、祈りの造形に注目いただきを感じて頂ければ幸いです。



重要文化財 水月観音像 徐九方筆
(京都・泉屋博古館)



しきょう尊 (京都・泉屋博古館)

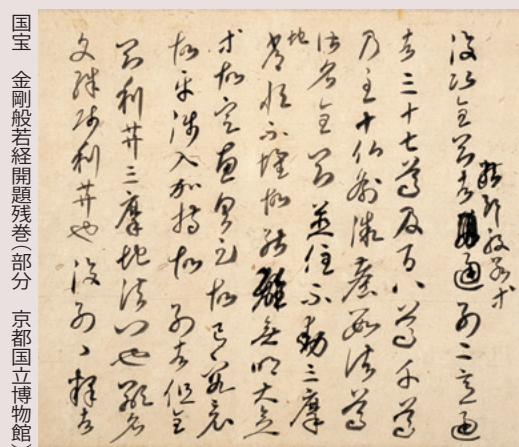
空海の草書

当館学芸部研究員 樋笠逸人

弘法大師空海の超人的な能力を語る数々の伝説のなかにも、事実の一端を伝えるものがある。空海は、両手両足と口で同時に五本の筆を操ったことから、「五筆和尚」と呼ばれたという。この曲芸のような空海の技は、もちろん後世の誇張であるうが、空海が唐に留学してからおよそ五十年後、福州の開元寺を訪れた入唐僧の円珍は、かの地で空海が「五筆和尚」の名で知られていたことを記録している（小野勝年「入唐求法行歴の研究」）。「五筆和尚」というのは本来、篆書・隸書・楷書・行書・草書の五つの書体を、空海が自在に使いこなしたことを意味する呼び名だったと考えられている。

四月十三日より開催する特別展「空海 KŪKAI―密教のルーツとマンダラ世界」では、空海の書の名品が一堂に会する。まさに「五筆」の面目躍如たる多彩な書は、その全体像を語り尽くすのがとても難しい。ここでは「五筆」のなかで一つだけ、空

海の草書の画期性について触れてみたい。



国宝 金剛般若経開題残巻（部分） 京都国立博物館

海の草書の画期性について触れてみたい。空海の草書の代表作である「金剛般若経開題」は、あらゆる執着を断ち切る智慧を説く經典『金剛般若経』の奥旨を示した解説書。軽妙ながらも力強い筆運びでしたためられた文字は、ところどころに加筆修正があり、空海が文章を推敲しながら書き進めた草稿本であることが知られる。つまり草書は空海にとって、思考を妨げずに速記できる自然体の書であったようだ。しかもその字形は自己流に書き崩したようなものではなく、王羲之の書風を基礎とし、唐代の書法に学んだ本格的な草書体である（加

藤詩乃「空海の草書体―平安時代初期における草書体の受容について―」。

空海が在唐中に書写・収集した密教典籍の冊子集「三十帖冊子」（京都・仁和寺蔵）にも、熟練した草書がみられる。いくつかの筆跡が混在し、唐の写経生も加わって書写したとされる「三十帖冊子」であるが、なかでも空海自筆と認められる第二十帖は、途中で楷書から行書・草書へと書体に変化する。その切り替えはぎこちなさが全くなく、まるでプロドライバーのギアチェンジのように、スムーズに筆が加速していく。通常、写経は謹厳な楷書で書写されるが、空海は限られた時間で多くの經典を書写するために、草書を積極的に行ったとみられる。これが長安に滞在していた八〇五年頃に書写したものだとなると、空海は三十二歳にして、草書を本格的に体得していたことになる。

このことはわが国の書道史上、画期的な進歩であったといえる。正倉院に伝わる『国家珍宝帳』には、聖武天皇の遺愛品として王羲之の「草書卷」が記載されているように、奈良時代には草書の手本が中国から日本にもたらされていた。しかし正倉院文書にみられる書風を分析した研究によると、奈良時代には字形が単純な一部の草書が用いられているものの、本格的な草書はほとんど定着していないという（内藤乾吉「正倉院古文書の書道史的研究」、黒田洋子「正倉院文書の「啓」・書状に見られる書の性格」）。当時の日本で普及していたのは、おもに楷書と行書、あるいはそれらを草書風に崩した書体であった。

草書は、楷書↓行書↓草書という順に字形を崩して成立した書体のように思われるが、そうではない。草書は行書と楷書の成立よりも早く、隸書を母体として、前漢時代の紀元前一世紀頃にその原型ができた。そのため草書には、楷書の姿からは想像がつかない字形や、筆順が根本的に異なる字形もある。楷書と行書を先に身につけた奈良時代の人びとにとって、草書の体得は難関であったと想像される。これに対して空海は、漢字の長い歴史に由来する文化のハードルを、いとも簡単に飛び越えてしまった。

空海は長安に滞在していたわずか一年の間に、インド出身の般若三藏からサンスクリット語を学び、唐の高僧である青龍寺の恵果阿闍梨から密教の体系的な知識を伝授された。空海の自在な草書の書きぶりは、書の分野にとどまらない、空海のずば抜けた学習能力の高さを裏付けているかのようである。

出陳一覧

名品展

珠玉の仏たち

なら仏像館

令和6年3月26日(火)～

【第1室】

- 阿弥陀如来立像 個人
- 観音菩薩立像 文化庁
- 不動明王立像 正智院
- 天部形立像 法明寺
- 大黒天立像 西大寺
- 尼藍婆坐像・毘藍婆坐像 西南院

【第2室】

- 阿閼如来坐像 西大寺
- 釈迦如来坐像 東慶寺
- 文殊菩薩坐像 薬師寺
- 毘沙門天立像 如法寺
- 侍者坐像 当館

【第3室】

- 宝冠阿弥陀如来坐像 安楽寿院
- 阿弥陀如来坐像 現光寺
- 如来坐像 法徳寺
- 阿弥陀如来立像 善集院
- 阿弥陀三尊像 個人

【第4室】

- 十一面観音菩薩立像 海住山寺
- 如来立像 個人
- 諸尊仏龕 個人

- 諸尊仏龕 寂照寺
- 誕生釈迦仏立像 正眼寺
- 誕生釈迦仏立像 悟真寺
- 誕生釈迦仏立像 当館

- 菩薩半跏像 神野寺
- 菩薩立像 法起寺
- 観音菩薩立像 法徳寺
- 観音菩薩立像 興福院

- 観音菩薩立像 法隆寺
- 観音菩薩立像 観心寺
- 観音菩薩立像 金剛寺
- 十一面観音菩薩立像 一乗寺

- 如来坐像 当館
- 誕生釈迦仏立像 個人
- 二仏並坐像 当館
- 菩薩立像 個人

- 十一面観音菩薩立像 個人
- 力士立像 個人
- 如来立像 光明寺
- 如来立像 当館

- 方形阿弥陀三尊像(中国出土) 当館
- 三尊像 南法華寺
- 小型独尊像 当館
- 小型独尊像 当館

- (大分県虚空蔵寺跡出土) 当館
- 小型独尊像 当館
- (三重県夏見庵寺出土) 当館
- 塑像断片(迦楼羅頭部ほか) 当館

- (奈良県川原寺裏山遺跡出土) 当館
- 明日香村教育委員会
- 塑像断片(天部・僧形像ほか) 福命寺
- (滋賀県雪野寺出土) 福命寺

【第6室】

- 天部形立像 兵庫県
- 阿弥陀如来立像 興福寺
- 如来立像 元興寺
- 阿弥陀如来坐像 当館
- 阿弥陀如来坐像 歡喜寺



阿弥陀如来坐像 歡喜寺

- 宝冠阿弥陀如来坐像 當麻寺
- 力士立像 当館

- 特別公開
- 金剛力士立像 金峯山寺

- 【第7室】
- 光背(二月堂本尊所用) 東大寺
- 観音菩薩立像 当館

- 観音菩薩立像 文化庁
- 観音菩薩立像 勝林寺
- 十一面観音菩薩立像 地福寺
- 十一面観音菩薩立像 園城寺

- 千手観音菩薩立像 勝林寺
- 十一面観音菩薩立像 新薬師寺
- 十一面観音菩薩立像 薬師寺
- 十一面観音菩薩立像 当館

- 【第8室】
- 如来三尊像 当館

- 如来三尊像 個人
- 法華説相圖 長谷寺
- 四天王立像残片 西大寺
- 阿弥陀如来立像(裸形) 浄土寺

- 梵天立像 秋篠寺
- 救脱菩薩立像 秋篠寺

【第9室】

- 十一面観音菩薩立像 松尾寺
- 十一面観音菩薩立像 西光院
- 准胝観音菩薩立像 文化庁
- 明星菩薩立像 弘仁寺
- 地蔵菩薩立像 大福寺
- 地蔵菩薩立像 万福寺

【第10室】

- 不動明王立像 妙法院
- 不動明王立像 正寿院
- 不動明王坐像 正寿院



不動明王坐像 正寿院

- 不動明王立像 個人
- 不動明王立像 当館
- 軍荼利明王立像 園城寺

【第11室】

- 龍神像 薬師寺
- 獅子・狛犬 興喜天満神社

- 蔵王権現立像 大峯山寺
- 十二神将立像(子・巳神) 当館
- 持国天立像・増長天立像 法徳寺

- 天部形立像 個人
- 二天王立像 室生寺
- 毘沙門天立像 高尾地蔵堂

- 帝釈天坐像 室生寺
- 吉祥天倚像 当館

【第13室】

- 特別公開
- 金剛力士立像像内納入品 金峯山寺
- 阿弥陀如来立像 浄土寺
- 菩薩面 浄土寺

- 破損仏像残欠コレクション 当館

名品展

中国古代青銅器(坂本コレクション)

青銅器館



鼎 (紀元前11～10世紀)

中国古代の商(殷)から漢代に製作された、青銅器の逸品を展示しています。

※●＝国宝、○＝重要文化財
※展示品は都合により一部変更する場合があります。

◆キャンパスメンバーズ

令和6年4月1日現在、「キャンパスメンバーズ」会員の大学等は以下の通りです。

追手門学院大学文学部・国際教養学部、大阪大学・大阪大学歯学部附属歯科技工士学校、大阪大谷大学、関西大学・関西大学第一高等学校・関西大学北陽高等学校・関西大学高等部、関西学院大学・関西学院短期大学・関西学院高等部、関西学院千里国際高等部、関西学院大阪インターナショナル、京都大学、京都外国語大学・京都外国語短期大学、京都工芸繊維大学、京都女子大学・京都女子高等学校、京都精華大学、京都橘大学、近畿大学文芸学部・近畿大学大学院総合文化研究科、嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学、四天王寺大学人文・社会学部・教育学部、就実大学人文科学部、帝塚山大学、天理大学、同志社大学・同志社女子大学・同志社高等学校・同志社香里高等学校・同志社女子高等学校・同志社国際高等学校・同志社国際学院国際部、奈良大学、奈良教育大学、奈良県立大学、奈良工業高等専門学校、奈良女子大学、奈良先端科学技術大学院大学、佛教大学、立命館大学・立命館大学大学院、龍谷大学・龍谷大学短期大学

(以上、五十音順)

◆奈良国立博物館賛助会

令和6年4月1日現在、特別支援会員2団体、特別会員6団体、一般会員(団体)14団体、一般会員(個人)124名のご入会をいただいております。

〔特別支援会員〕 (株)読売新聞大阪本社

(株)大和農園ホールディングス

〔特別会員〕 (株)奥村組西日本支社、(株)朝日新聞社、
(株)ライブアートブックス、(株)葉風泰夢、
結の会

〔団体会員〕 日本通運(株)関西美術品支店、(株)尾田組、
(株)木下家具製作所、(株)天理時報社、
(株)きんでん奈良支店、奈良信用金庫、
ひかり装飾(株)、(株)南都銀行、小山(株)、
(株)ワールド・ヘリテージ、
奈良県有名専門店会、(株)ゴードー

〔個人会員(新規)〕

近藤 伸亮様 令和5年12月ご入会
別所 啓伊子様 令和6年1月ご入会
今本 薫様 令和6年1月ご入会
足立 典之様 令和6年2月ご入会
鈴木 健之様 令和6年3月ご入会
大神 正幸様 令和6年3月ご入会

ならはく教育普及スペース「ちえひろば」

とくべつワークショップ開催中!

地下回廊にある「ちえひろば」では、仏教美術について体験的に学べるワークショップを開催しています。仏像や絵巻物のレプリカに触る体験を通して、仏教美術をぜひ身近に感じてください。(参加費無料、申込不要)

【ほとけさまに服を着せよう!】

基本毎月第2日曜日 10時30分～15時30分 開催
令和6年4月14日(日)、5月5日(日)、5月12日(日)、6月9日(日)

【絵巻物をみて!きいて!さわろう!】

基本毎月第4日曜日 10時30分～15時30分 開催
令和6年4月28日(日)、5月26日(日)、6月23日(日)



「ほとけさまに服を着せよう!」の実施風景。
ボランティアの補助のもと、仏像のレプリカに服を着せることができます。

【表紙解説】

国宝

金銅密教法具

銅製 鑄造 鍍金
五鈷鈴 高二五・八cm 同口径七・七cm
五鈷杵 長二四・〇cm 金剛盤幅三四・八cm
同 奥行一九・七cm 同高六・六cm
中国・唐(9世紀)
京都 教王護国寺(東寺)

空海が唐から請来した密教法具で、わが国への本格的な密教の導入を象徴する遺品として格別の意義をもつ。密教の修法で行者が手にする五鈷鈴・五鈷杵と、両者を安置する金剛盤の3点からなる。鑄銅製ながら、その質感は弾力性さえ感じさせるようで、定型化したわが国の後世の法具とは明らかに異なる趣がある。金剛盤に施された線刻文様や、五鈷鈴の持ち手の中央部分(鬼目)も力強く、請来品であることを裏付ける。今日でも真言宗を代表する法会・後七日御修法(国家の安泰を祈る儀式)で用いられる至宝である。

三本 周作(当館学芸部主任研究員)
※生誕1250年記念特別展「空海 KŪKAI ―密教のルーツとマンダラ世界―」にて展示

❖ サンデートーク ❖

美術や歴史のこと、博物館の活動など、当館ならではの多彩なテーマ、日頃聞くことの出来ない「通(つう)」なお話をご用意して、皆様をお待ちしております。どうぞお気軽にご参加ください。

■ 4月21日(日)

「神社と鏡」

中川 あや(当館学芸部教育室長)

神社に奉納される鏡、神社の祭祀に用いられる鏡、神社周辺の経塚に埋納される鏡など、神社と鏡の様々な関わりについて近年の調査成果も交えながらお話しします。

[受付期間 4月5日(金) 12:00~4月20日(土) 17:00]

■ 5月19日(日)

「仏さまの《スカート》」

岩井 共二(当館学芸部美術室長)

如来・菩薩・明王は、「^{にょらい}「^{ぼさつ}「^{みんおう}「^{くん}という巻きスカート状の^{ころも}衣を着ています。裾の様々な着付け方を紹介することで、仏像の形状理解を深めていきたいと思います。

[受付期間 5月2日(木) 12:00~5月18日(土) 17:00]

■ 6月16日(日)

「甦る古代美術―修復と復元、そして創作―」

三田 覚之(当館学芸部主任研究員)

一見美しく保たれているように見える古代美術。しかしその裏には保存と修復の弛みない努力があります。また当初の姿を甦らせる復元や、すでに失われたものの創作など、講師が携わってきた文化を伝える裏側をご紹介します。

[受付期間 5月31日(金) 12:00~6月15日(土) 17:00]

■ 7月21日(日)

「文化財の生物被害対策 ―文化財を生物被害から守る―」

小峰 幸夫(当館学芸部研究員)

文化財は虫やカビなどの被害を受けることがあり、時には修理が困難になるほどになります。被害の発見・対処には害虫の種を特定することが重要です。害虫とその対策について、近年の研究成果を含めて紹介いたします。

[受付期間 7月5日(金) 12:00~7月20日(土) 17:00]

■ 8月18日(日)

「日本に舞い降りた鳳凰^{ほうおう}」

樋笠 逸人(当館学芸部研究員)

古代中国で生まれた想像上の霊鳥、鳳凰は、日本でも神仏や天皇など、貴い存在を示すモチーフとなっています。鳳凰の造形がどのようにして、正倉院宝物や御輿の屋根飾りに用いられるようになったのか、古代の仏教文化を手がかりに読み解きます。

[受付期間 8月2日(金) 12:00~8月17日(土) 17:00]

■ 9月15日(日)

「第8回 茶室・八窓庵^{はっそうあん}をのぞいてみませんか」

吉澤 悟(当館学芸部長)

奈良博の庭園にひっそり佇む八窓庵。江戸中期に建てられた織部好みの名茶室です。普段は入れない茶室の内部をご案内いたします。雨天の場合は講堂で写真解説をいたします。茶室は狭いため、定員を90名とさせていただきます。

[受付期間 8月30日(金) 12:00~9月14日(土) 17:00] ※定員90名

【時 間】 13:30~15:00 (13:00開場)

※2024年4月より開催時間が変更となります。

【会 場】 当館講堂

【定 員】 各回180名(事前申込先着順)

【申込方法】 当館ウェブサイトより必要事項をご入力の上、お申し込みください(WEB申込のみとなります)。

【受付期間】 各講座欄をご覧ください。

※聴講無料(展覧会観覧券等の提示は不要です)。

※聴講には事前申込が必要です(当日申込でのご参加はできません)。

※入場の際には、受付完了メール画面をご提示ください。

※応募は各回お1人様1回でお願いいたします。

※定員に達し次第締め切りとさせていただきます。

❖ 公開講座 生誕1250年記念特別展「空海 KŪKAI ―密教のルーツとマンダラ世界」❖

■ 4月27日(土)

「空海マンダラの世界 ―宇宙へのいざない―」

講師:松長 潤慶 氏(高野山大学副学長)

[受付期間 4月1日(月) 10:00~4月15日(月) 17:00]

■ 5月18日(土)

「日本仏教史における空海と密教」

講師:斎木 涼子(当館学芸部列品室長)

[受付期間 4月22日(月) 10:00~5月6日(月・休) 17:00]

■ 5月25日(土)

「高雄曼荼羅―弘法大師御筆の両界曼荼羅」

講師:谷口 耕生(当館学芸部企画室長)

[受付期間 4月30日(火) 10:00~5月13日(月) 17:00]

【時 間】 13:30~15:00(13:00開場)

【会 場】 奈良国立博物館 講堂

【定 員】 各回180名(事前申込抽選制)

【応募方法】 当館ウェブサイト「講座・催し物」→「公開講座」申込フォームより必要事項をご入力の上、お申し込みください(WEB申込のみとなります)。

【参加証の送付】 当選者には、参加証(当選メール)をお送りします。当日必ずご提示ください。

※聴講無料(展覧会観覧券等の提示は不要です)。

※応募は各回お1人様1回でお願いいたします。

※参加証で展覧会場に入場することはできません。

※当選者にキャンセルが発生した場合、繰り上げ当選連絡を行います。詳細はウェブサイトをご覧ください。

◆「奈良博メンバーシップカード」「国立博物館メンバーズパス」のご案内

当館の特別展(記名者本人のみ4回まで)や名品展・特別陳列(常設展)を無料でお楽しみいただける「奈良博メンバーシップカード」を販売しております。「奈良博メンバーシップカード」の特典として、各特別展にて研究員の解説付きの特別鑑賞会(抽選制)を実施しております。

また、国立博物館4館の平常展(当館では「名品展」)等を無料でご観覧いただける「国立博物館メンバーズパス」も販売中です。

詳細は右記QRコードからご確認ください。くか、当館観覧券売場へお問い合わせください。



5,000円
(※博物館だより送付有)



4,500円
(※博物館だより送付無)

生誕1250年記念特別展「空海 KŪKAI - 密教のルーツとマンダラ世界」にて展示

展示品の みどころ

生誕1250年記念特別展「空海 KŪKAI - 密教のルーツとマンダラ世界」にて展示

しろがいの 白螺貝

シャンクガイ

長11.4cm 最大径6.3cm

重232g

中国・唐（8世紀）
京都・教王護国寺（東寺）



空海が唐から持ち帰った品々を記した『弘法大師請来目録』には金剛智が南インドからもたらし、不空、恵果を通じて空海に伝えられた「白螺貝」が登場する。教王護国寺に伝来した本作は、木下尚子氏の研究（木下、「白螺貝一口」考－空海請来品の一検討、1996年）により、インド西岸やスリランカに生息するオニコブシガイ科の巻貝、シャンクガイであることが判明し、『弘法大師請来目録』の品そのものであると指摘された。

層が分厚く色が白いというシャンクガイの特徴は「白螺貝」という名称に相応しく、真言宗最大の法会とされる後七日御修法（国家の安泰を祈る儀式）の道具類とともに厳重に保管されてきたことも、空海の持物であったことを裏書きしている。

シャンクガイはインド神話においてビシュヌ神の持物とされ、現在もヒンドゥ教をはじめインド・東南アジアの仏教で法要に用いられている。まさにそのインドから歴代の祖師に受け継がれてきたこの小さな貝は、空海が伝えた密教の正当性を示していると言えるだろう。

三田 覚之（当館学芸部主任研究員）

諸尊仏龕

国宝

木造 素地

総高23.1cm

中国・唐（7～8世紀）
和歌山・金剛峯寺



空海が身近に置いた枕本尊と称されてきた携帯用の仏龕（仏壇のように尊像や莊嚴を彫り出した龕）である。空海が唐から持ち帰った文物の目録（『弘法大師請来目録』）に、本品の記載があり、それによれば、真言宗の祖師の一人金剛智（671～741）が南天竺から持って来て、弟子の不空（705～774）、その弟子で空海の師、恵果（746～805）に伝えられ、空海へと受け継がれたものだという。この伝来によれば本品はインドで造られたことになるが、今日の見解では、この仏龕は中国・唐の7世紀から8世紀頃の制作とされる。また、中国の6世紀頃の仏像に類似する要素が見出されることが指摘されている。

6世紀には、梁の武帝（在位502～549）が、優填王の仏像（釈迦の在世時にその姿を写して造られたとされるインドの仏像）を請来させたといい、この時代にはインド風と中国風の混在した仏像も造られていた。6世紀前半に隆盛を誇った梁の仏教美術はほとんど失われてしまったため、確証は得られないが、本品は、梁の時代の仏像を写した可能性がある。梁の仏像様式は、ある時期まで中国において正統的な権威を持っていたと思われるからである。

本品が、空海が恵果から法灯継承の証として受け継いだ品とされることも、これがインド的かつ中華の正統を受け継いだ何か由緒ある仏像の写しであったことをうかがわせるのである。

岩井 共二（当館学芸部美術室長）

■開館日時（4月～6月）

■開館時間／午前9時30分～午後5時

※名品展のみ毎週土曜日は午後8時まで。

※入館は開館の30分前まで。

■休館日／毎週月曜日、5月7日（火）

※4月29日（月・祝）、5月6日（月・休）は開館。

※その他、臨時に休館日を変更することがあります。

■無料観覧日（名品展のみ）／

5月18日（土）（国際博物館の日）

■観覧料金 名品展

	一般	大学生
個人（当日）	700円	350円

※高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、障害者手帳またはミライロIDをお持ちの方（介護者1名を含む）は無料です。

※奈良国立博物館キャンパスメンバーズ加盟校の学生及び教職員の方は無料です。

※高校生以下および18歳未満の方と一緒に観覧される方は子ども1名につき同伴者2名まで一般100円引き、大学生50円引きとします（親子割引）。

■観覧料金

生誕1250年特別展「空海 KŪKAI - 密教のルーツとマンダラ世界」

	一般	高大生
当日券	2,000円	1,500円
前売・団体券（20名以上）	1,800円	1,300円

※中学生以下無料。

※販売場所：当館観覧券売場（休館日は販売いたしません）、展覧会オンラインチケット（手数料無料）、ローソンチケット【Lコード：52679】、イープラス、セブンチケット【セブンコード：103-749】、ひあ、美術展ナビチケットアプリで販売。

※前売り券の販売は令和6年（2024）2月13日（火）から4月12日（金）まで。

※障害者手帳またはミライロID（スマートフォン向け障害者手帳アプリ）をお持ちの方（介護者1名を含む）、奈良博メンバーシップカード会員の方（1回目及び2回目の観覧）、賛助会員（奈良博、東博（シルバー会員を除く）、九博）清風会会員（京博）、特別支援者は無料。

※本展の観覧券で、名品展（なら仏像館 青銅器館）もご覧いただけます。

※奈良国立博物館キャンパスメンバーズ会員（学生）の方は400円、同（教職員）の方は1,900円で当日券をお求めいただけます。観覧券売場にて学生証または職員証をご提示ください。

※当館には駐車スペースがございませんので
近隣の県営駐車場等（有料）をご利用ください。



〔交通案内〕近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス（外回り）「氷室神社・国立博物館」下車すぐ。



奈良国立博物館
NARA NATIONAL MUSEUM

〒630-8213 奈良市登大路町50番地（奈良公園内）

ハローダイヤル 050-5542-8600

ウェブサイト <https://www.narahaku.go.jp/>

『奈良国立博物館だより』は、1・4・7・10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し、返信用封筒を同封して、当館の情報サービス室にお申し込みください。
※返信用封筒には宛名を明記し、長形3号の場合は94円切手を、角形2号の場合は120円切手を貼付してください。